

当院では、下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先までお知らせください。

受付番号 【 5-1 】

研究課題名	大腸癌化学療法患者における大腸金属ステントの影響についての後方視的臨床研究
当院の研究責任者 (所属)	氏名 宮原貢一 所属 第一内科
本研究の目的(概要)	<p>本邦において大腸癌治療ガイドライン(2019年版)によると、穿孔の危険性を理由に「化学療法の適応となる患者におけるステント治療は、行わないことを弱く推奨する」となっている。しかし根拠となる質の高い論文は存在せず、欧州消化管内視鏡学会(European Society of Gastrointestinal Endoscopy;ESGE)ではステント留置後の化学療法に関しては言及されておらず、米国消化管内視鏡学会(American Society for Gastrointestinal Endoscopy;ASGE)では「抗VEGF抗体薬を使用しなければ、大腸ステント留置後の化学療法は安全に行える」とされている。また臨床現場では、大腸癌による結腸狭窄のためイレウスを発症し、大腸金属ステントを挿入せざる得ない場合も多い。</p> <p>大腸癌化学療法患者における大腸金属ステントの影響を明らかにするため、当院にて大腸癌に対して大腸金属ステントを挿入した症例を対象として、後方視的に化学療法に対する影響を調査・解析する。</p>
調査データの該当期間	2012年5月1日～2020年4月30日
研究の方法 (使用する情報等)	<p>電子カルテを用いた後ろ向き調査を行います。</p> <p>【適格基準】 大腸癌に対して金属ステントを挿入した全ての方</p> <p>【除外基準】 研究への参加の拒否を申し出た方</p> <p>【観察項目】</p> <p>①患者背景(年齢、性別、身長、体重、BMI、血清アルブミン、血清総蛋白、Hb、併存疾患、部位、狭窄長、Stage、閉塞スコア、化学療法の種類)</p> <p>②ステント(ステントの長さ、直径、ステントの種類、早期および晩期偶発症、技術的成功、臨床的成功、再閉塞期間)</p> <p>③ステント留置後の化学療法に関して(化学療法開始までの期間、化学療法内容、生存期間)</p>
試料/他研究機関への	他研究機関への提供予定なし

提供及び提供方法	
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者を直接特定できる個人情報は削除致します。
本研究の資金源（利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	【研究担当者】氏 名 宮原貢一 第一内科 佐賀県唐津市和多田 2430 T E L (0955) 72-5111 F A X (0955) 73-9530
備 考	